

二松学舎大学人文学会 第一三〇回大会 要旨集

二松学舎大学人文学会第 130 回大会

大会次第

■日 時 2025 年 7 月 19 日(土) 13:00～(開場 12:30)

■開催方式 対面

■会 場 二松学舎大学 九段キャンパス 3 号館 2 階 3021 教室

■研究発表 13:00～14:05

三木啓介「季札「十字碑」の受容——「歴史」の共有と言語化」

(本学大学院文学研究科博士前期課程修了)

田中正樹「現代(20 世紀以降)芸術と古典」

(本学文学部教授)

■特集【人文学研究のフロンティア——文学部からの発信】 14:15～17:35

橋本秀美「言語聖殿の復原——世界の世俗化と言語の透明化」

(本学文学部教授)

妹尾好信『伊勢物語』東下りの結末と塩竈の風景」

(本学文学部教授)

麻生将「無教会主義キリスト教の空間論と生活世界——斎藤宗次郎のテキストを手掛かりに」

(本学文学部専任講師)

小澤京子「“化粧系男子”たちの変容と転回:1970 年代から現在に至る男性ミュージシャンたちの実践とファンダムによる創造的解釈から」

(本学大学文学部教授)

■総 会 17:40～18:10

■閉 会 18 時 10 分

【研究発表要旨】

季札「十字碑」の受容——「歴史」の共有と言語化

本学大学院文学研究科博士前期課程修了 三木啓介

江蘇省丹陽市延陵鎮九里村には、春秋呉の季札を祭った季子廟があり、その敷地内には「延陵季子碑」が設置されている。同碑は篆書で「嗚呼有呉延陵君子之墓」の十字が刻まれていることから、「十字碑」とも称される。

この十字碑は長い歴史を持つが、実のところその由来は明らかでない。孔子が季札のために十字の銘文を刻したとされるが、文献に記載がなく、その真偽をめぐっては前近代より議論がある。

十字碑は、唐代の開元期より文献上に頻見するようになる。それらを見ていくと、前述した孔子が季札のために銘文を刻んだことが、唐人の「歴史」（＝歴史認識）として共有されていたことがわかる。

また、開元期以前から十字碑が存在したことは推測できるが、文献上にはただの一例しか確認できない。この点で、開元期は前述の「歴史」が言語化されていく画期とみることができる。そしてその言語化は開元期以降も続き、ありかたも一様ではない。

十字碑の先行研究では、上述した孔子由来説を含めてその成立が争点となってきた。しかし本発表では、視点を変えて上述の「歴史」の共有と言語化を意識しながら、十字碑の受容を論じる。

現代（20世紀以降）芸術と古典

本学文学部教授 田中正樹

【特集…人文学研究のフロンティア——文学部からの発信】

言語聖殿の復原——世界の世俗化と言語の透明化

本学文学部教授 橋本秀美

『伊勢物語』東下りの結末と塩竈の風景

本学文学部教授 妹尾好信

無教会主義キリスト教の空間論と生活世界——斎藤宗次郎の
テクストを手掛かりに

本学文学部専任講師 麻生将

“化粧系男子”たちの変容と転回：1970年代から現在に至
る男性ミュージシャンたちの実践とフアンダムによる創造的解釈
から

本学文学部教授 小澤京子